広島市医師会 市民公開講演会

忘れまい原爆の恐ろしさを 伝えようヒロシマの心を

2019年6月30日(日)
13:30〜16:00
会　場　広島医師会館 2階 講堂

主催：一般社団法人 広島市医師会　後援：広島市・広島市教育委員会　協賛：広島県教育委員会

展示協力

カラー化写真提供：「記憶の解凍」（庭田杏珠×渡邉英徳）

被爆の記憶の継承を目的に、戦前・戦後の白黒写真を人工知能（AI）技術・戦争体験者との対話をもとに、カラー化した作品です。

広島県産業奨励館

写真提供：広島県立文書館

現在の「原爆ドーム」は、1915年に、広島県物産陳列館として建設された。当時はまだ珍しかった銅板葺のドームを持つ欧風建築は、街のシンボルとなっていた。物産品の展示と販売に加えて、県美展の会場として用いられるなど、ミュージアムとしての役割も果たしていた。その後、1933年に産業奨励館と改称された。

1945年8月6日、爆心地から160メートルの至近距離で被爆した。ほぼ真上から爆風を受けたため、建物の壁の一部は横圧を受けず、崩壊しなかった。1996年に世界遺産に登録された原爆ドームは、被爆当時の姿のまま立ち続けており、核兵器廃絶・恒久平和の大切さを世界に訴え続けている。

広島広域観光情報サイト「ひろたび」より（一部改稿）

大書「生命の聲」
県立五日市高等学校書道部作品（2019ひろしまフラワーフェスティバルより）

ご挨拶

被爆70年を機に始めた当会の市民公開講演会も今年で5年目となり、ひとつの節目を迎えました。私たちヒロシマの医師は、原爆投下後被爆者の救護活動に専念した医療従事者の体験を原点として、被爆体験の継承と被爆医療の推進、そして核兵器のない平和な世界を希求することを使命と考え、この講演会を開催し、4年間で13名の講師と1,000人余りの方々にご参加いただきました。小さな活動ではありますが、講師の語る言葉や若い世代の率直な言葉は、参加者に大きな何かを残してきたものと考えております。

今年はテーマを「忘れまい原爆の恐ろしさを　伝えようヒロシマの心を」とし、長年被爆者のACP（Advance Care Planning）に大変力を注がれてきた講師による基調講演や被爆医師の体験を聴いていただきます。ACPとは、自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する取組のことで、「人生会議」や「私たちの心づもり」とも呼ばれています。これは、あの8月6日を生き抜いた被爆者に限らず、私たちが自分の人生の最終段階に備えて考えておくべき大事なことです。

折しも4月に広島平和記念資料館本館がリニューアルオープンし、5月には元号が「平成」から「令和」に改元されました。この新しい時代が平和で戦争のない時代になることを願ってやみません。そのためにも、この講演会で皆様と共に平和、戦争について考えていきたいと思います。本日はご出席いただきありがとうございます。

一般社団法人 広島市医師会 会長　**松村　誠**

プログラム

13:30～

オープニング　高校生によるオープニング　―合唱―

安田女子高等学校　音楽部

【曲目】
「リフレイン」
「空とぶ うさぎ」
「夢みたものは」
「いのちの歌」
4曲

安田女子高等学校音楽部は、聴いてくださる方々に想いを届けられるよう、毎日練習を重ねています。日々の練習では、部員一人一人が合唱をすることを楽しみ、お互いの声に耳を傾け、部員全員で目標を目指しています。本日は、「リフレイン」「空とぶ うさぎ」「夢みたものは」「いのちの歌」を演奏させていただきます。

皆様と、歌を通じて素敵な時間を共有できるよう、心を込めて歌います。どうぞ最後までお楽しみください。

14:00～

開会挨拶　一般社団法人 広島市医師会 副会長　森田　健司

14:05～

基調講演「原爆被爆者の人生の語りから見えてくるもの ―令和の若い人たちへ―」

講師　広島原爆養護ホーム舟入むつみ園医師
三原赤十字病院呼吸器内科医師
有田　健一 先生

1974年　広島大学医学部医学科卒業。1981年　医学博士号取得（広島大学）。米国留学を経て1990年　広島赤十字・原爆病院呼吸器科部長。2003年　広島大学大学院臨床教授。2004年以後数回にわたり放射線被爆者医療国際協力推進協議会幹事、広島県医師会常任理事として北米被爆者検診・南米被爆者検診それぞれに参加。2008年　藍綬褒章受章。2015年　日本肺癌学会特別会員、日本結核病学会、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本気管支内視鏡学会ではともに功労会員。主な著書「私たちの心づもり　―71年目の原爆被爆者の心」（溪水社）。

14:40～

語り継ぐ会　―被爆医師の被爆体験講話―

15:25～

被爆医師と高校生の座談会・質疑応答

講師　ルネッサンス出汐内科整形外科医院　院長
原田　義弘 先生

昭和12年（1937年）２月、中島本町（現在の広島平和記念公園所在地）で生まれ育つ。昭和20年４月、元安橋辺りは危険であったため、軍部の命令により、安佐郡安村大町（現在の安佐南区大町、爆心地より７km）に疎開し難を逃れた。昭和20年８月６日朝、もの凄い閃光、爆音爆風を体験するとともに、キノコ雲を目撃した。

昭和21年11月、現住所である中区広瀬町に移り、本川小学校、修道中・高等学校を経て、東京慈恵会医科大学に入学。昭和47年35歳の時に帰広し、中区広瀬町の原田病院に勤務。平成元年から30年間同病院院長を務め、80歳の時に閉院。現在、ルネッサンス出汐内科整形外科医院院長。

講師　医療法人三和会　おおうち病院内科医師（元 県立広島病院副院長）
檜脇　千里 先生

昭和６年（1931年）広島市生まれ。昭和18年広島高等師範学校附属中学校入学。３年生の８月６日、東区牛田中1丁目で被爆。昭和31年長崎大学医学部卒業。母校、生化学教室、第一内科教室にて文部教官として勤務。昭和37年医学博士（長崎大学）。昭和43年県立広島病院に転勤、平成８年に同病院を定年退職。以後、中区の林病院、次いで、おおうち病院に勤務し現在に至る。この間、広島大学医学部、広島県立高等看護学校、広島文化女子短大の非常勤講師、広島市医師会理事を兼任した。

閉　会

16:00